

## 令和元年度第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 令和2年1月30日(木) 午後3時00分～5時10分
- 会 場 鶴岡市役所 大会議室
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 13名
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 29名
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 2人

(午後3時00分 開会)

### 1 開会 (進行: コミュニティ推進課長)

### 2 委嘱状交付

### 3 挨拶 (市民部長)

### 4 委員紹介

### 5 委員長、副委員長の選出について

武田真理子委員を委員長に、齋藤建委員を副委員長に選出

### 6 意見交換等

(1) 市のコミュニティ施策について

(2) 「鶴岡市地域コミュニティ推進計画」の推進に向けた地域の取組状況について

(事務局)

資料1～6-1により説明。

(A委員)

ビジョンの頑張っている姿を見て感動したり大変だなと思ったりしている。資料7の下側に藤島地域の計画の構成ということで5年前の計画がある。この時は地域の人と振興会、町内会長、庁舎の職員と一緒に話し合いながら計画の柱や各自治会の課題、あるいはコミセンの課題、こういったものをベースとして計画を立てた。一生懸命ビジョン作成を行っているのは良いと思うが、それぞれの課題がどうなったかというのが見えてこない。各地域でこういった活性化委員会の諸委員会を作り、自分の地域がどうなっているのか、課題がどこまでいっているのかということに関して棚卸しをしないと、次の

第二次は出てこないのではないかと考えている。ビジョンはビジョンで良いのだが、例えば自治会で「各世代の住民のニーズに合った活動に再構築したい」という課題があった場合、住民ニーズをどのように把握したのか、ニーズで1番多いものはどうだったのか、それを計画にどのように反映したのかといった流れが出てくる。それを各地域で庁舎ごとに話し合うべきでないかと思う。そうすると第二次の計画が出来上がってくると思う。

(委員長)

事務局から報告あったとおり、地域ごとに計画に則って怯むことなく課題解決に向かって進んでいるわけだが、課題がどうなっているかという検証を地区ごとにこのような委員会のようなものを作り、地域と行政一緒になって来年度の全体の推進計画の見直しに向かっていったら良いのではないかという提案であった。

(F委員)

ビジョンの策定について、作成した後を見ると配布する予定となっている。総合計画の時もそうだったのだが、全戸配布された普及版は私の周りでも「そんなものもらったっけ？」という人もいた。地域でビジョンを策定した時に配布は良いのだが、どう周知していくのか。地域の人がビジョンについて知らなければ、策定した意味がないのかなと思う。もしかして前も伺ったかもしれないが、藤島ではどのようにしたのかというのが気になったところである。もう1つ、資料5の生涯学習推進員の「教員の委嘱について」というところで気になったところがある。第一学区では学校の先生が生涯学習推進員として1人いるのだが、あまり一緒に活動はしていない。これでいうと、コミセンの生涯学習推進員で計画し先生からも手伝っていただきたいという時にはコミセンからお願いするという形になるのか、その辺を教えていただきたいと思う。

(事務局)

生涯学習推進員の教員の配置については今まで各地域に1人おり、現状を聞いたところ一生涯懸命学校の先生と一緒に取り組んでいる地区とそうでない地区があるというのがはっきりしていた。今後は、学校の先生がいなくても子どもたちの生涯学習を推進していくのに十分であろうという地区に関しては配置をせず、一緒に取り組む事業をするから先生の配置をお願いするところであれば教育委員会に依頼をして配置をしていただくという形にさせていただきたいと思う。これについては教育委員会とも話をしており了承を得ているので、そのような形で運用していく予定としている。

(F委員)

それは年度の途中でも良いのか。

(事務局)

年度に入る前に、どこの地域でも来年度の事業内容や日程等の打ち合わせを行うと思うので、その時点でお知らせいただきたいと思う。

(委員長)

もう1点のせっかくビジョンを策定してもみんなが知らなければということについてはどうか。皆様から周知の方法について何か情報提供いただけないだろうか。藤島ではビジョンを策定した後どのように周知をされたのか。

(A委員)

1つの事例だが、防災安全課でハザードマップを作り各世帯に配られた。あれをどうやって周知されるのかということも非常に大事なことだと思うので、それと全く同じである。作って終わりではもちろんないので、各町内会にビジョン図とか計画像を示し、振興会の理事である町内会長から住民の皆さんに総会の時などにお知らせする。防災マップも同じように棚に閉まっているだけでは何にもならない。きちんとどういう色でどういう危険があるのかということ各世帯、全世帯が知らないはずだと思う。

(委員長)

町内会長を通して住民にということであった。後ほど加茂のところでも伺いたいと思う。他の視点でもかまわないのでいかがか。

(C委員)

私はごく一般人なので自分の地域にある事業がここで見たのだが、それがこういうビジョンのもとに組み込まれていたことは知らなかった。1つ1つの細かい事業は参加したこともあるし子どもが行っているものもあったのだが、こういう全体像がわからなかった。各地域の取組がこんなに一生懸命やってお見本みたいに素晴らしいまとまりがあると思ったのだが、実際に今1番困っていることや地域の問題など、もっと隠れていることや取り組まなければいけないこととかがあのような気がする。1つ質問で、朝日南部地区の「伝統食をつなぐ会」というのは日曜日などにやっているか。

(事務局)

休みの日にやっている。

(C委員)

内容は伝統食だけではないようであるが、ここに若い人たちや子どもたちを参加させ

たいというのが目的にあると思う。詳細はわからないが、実際参加している世代はいつも同じ人になりがちなのかなと思うが、そこに若い人たちを引っ張り出すアイデアが何かないのか。若い人たちが休みの日はそれぞれの楽しみなどがある中で地域の行事に行くのは面倒くさい気持ちもあると思うのだが、それでも来てもらうには何かうまみがあるなどアイデアがあるのかなと思った。

(委員長)

ビジョンや取組は素晴らしいのだが、課題はもっと別にあるだろう、この時点での課題の整理や洗い直し、何に取り組むのかということも大事なのではというご指摘もいただいた。一方で素晴らしい取組が発表されているのだが、その中の工夫とかヒント、ポイントなどの抽出も必要なのかなと思った。そういうものを次の計画でということもあるが、どんな市民であってもそれにアクセスし、知ることが出来たり、それを活用してみようと思えるような情報共有も必要なのかなと感じた。

(〇委員)

今年は鼠年ということで鼠がつくところは全国で3ヶ所くらいしかないことから、今年は正月等に鼠ヶ関をだいぶPRし、鼠ヶ関ではスタンプを3つ作成した。これも地域の方々、商工会、観光協会、自治会、港振興会、地元の有志の一日会など、みんな協力し合ってコミュニティの中でやってきた。だいぶ反響があり、郵便局でも消印を作ったりして地域の活性化、地元のPRなどを兼ねて行った。非常に良かったなと感じている。今年オリンピックがあるわけだが、パラリンピックもあるということでバリアフリービーチというものを地元の自然体験温海コーディネットや鶴岡市内のみつわ会、山形の里山プロジェクト、県の港湾課等と連携しながらやっていきたいと思っている。それからコミュニティの件から見ると、私は1番貢献しているなと思うのは、地域の婦人会で「あたたか弁当」という試みをやっており、1人暮らし世帯の方々に弁当を作り安否確認も兼ねてふれあいをしている。また、放課後子ども教室も去年からやっているが、地域の皆さんから子どもたちと仲良くなっていただけて子どもたちを知り、その家族や親御さんも知るということで非常に良い試みだなと思っている。また、生涯学習推進員というのが誰になっているか把握していなかったのだが、地域の中にみちくさ会という組織もあり、それで学校と連携しながらやっている。それに対して今年、新しく変わるということで今まではボランティアということをやっていたのだが、今度は別の形で進むというお話を頂戴した。四地区の自治会長会議で事務局から説明があった。それについても取り組んでいきたいと思っている。

(委員長)

情報提供ありがとうございました。地震もあつたが逆に子年で攻めの取組をやっ

ることも分かった。

### (3) 地域ビジョン策定の取り組み状況

事例発表：「加茂ビジョンができるまで」

加茂地区自治振興会 事務局長 佐藤 祥子 氏

(委員長)

前半の会議でこれをどうやって周知するかという質問があったのだが、1,000人くらいの方にどうやって周知したのか。周知についての考え方を教えていただきたい。

(佐藤事務局長)

周知の方法については私も毎回頭を悩ませている。配っても「家には配られてこない」と言われる。配ったはずだから町内会長に聞いてほしいと言うのだが、自分にはこのようなお便りは来てないと言われる。それでコミセンが負けてしまうとそこで終わりだなと思うので、しつこく配らせていただくというか、同じものではなく各チームで現在行っている内容のお便りを配っている。各チーム5名ずつ分かれており、人数が多いわけではないのでアップアップになってしまうと言われるのだが、あなたたちが全部やるのではなく、地域の住民を巻き込んでいくのだと伝えている。そのためには自分たちが今やろうとしていること、例えば産業チームであればコロケ、チーズケーキ、お稲荷さん作り、自然チームであれば写真をビューポイントとして集める、歴史チームであれば若い人を大黒舞に取り入れるということを全戸配布している。現在はまち歩きガイドを募集しており、加茂の歴史と一緒にガイドしませんかということで歴史チームが募集をかけている。また、加茂地区の地図を全戸配布し、加茂の良いところのポイントに印を付けてコミセンに持ってきてほしいと依頼している。その際、コミセンに持ってこいというだけでも苦痛であるし、FAXがないという方もいるので、コミセンのポストに入れておいてほしいと言っている。それであれば夜間でもコミセンの玄関まで行ってポストに入れば良いだけなので、地域の方々の「ちょっと億劫だな」ということを緩和しながら、参加しやすくなるように何度も何度も諦めずに配布し、わかる人たちを増やしていつている。そうすると隣近所での話題にもなるので、仲間を増やしていくような形で徐々にではあるが広めている。

(委員長)

策定してから紙ではなく、策定するプロセスあるいは日常的にどんどん周知したり巻き込んでいく仕掛けをまさに事務局長がコーディネートされている様子、仲間がみんなと一緒にやっていることがわかった。

(小関委員)

世帯は何世帯か？

(佐藤事務局長)

現在、380世帯ほどになった。私が十何年前に入った時は500世帯くらいあったと思ったが、「加茂が400世帯切ったら危ない」とその当時のトップがよく話していたのを思い出す。いよいよ400世帯切ったかと常々思っているが、あまり大きすぎて範囲が広すぎると中々まとまりがなくなるというか、小さい範囲でこの人数だからこそ今このビジョンを一緒に活用できるのではないかとプラスに考えている。

(委員長)

数年前はそんなに関係が良くなかったところを色々良くされているというのが今日の話だったと思う。

#### (4) 鶴岡市地域コミュニティ推進計画（第2次）策定について

(事務局)

資料7により説明

(H委員)

先ほどの加茂の報告を聞いてすっきりしたところもある。策定の進め方について、社会福祉協議会が各地域で行っている地域支えあいプラン、おたがいさまのネットワークづくりなどの地域アンケートのまとめ方と非常に似ていると思った。すでに地域の課題などはそういった組織的な取組の中で作り上げているところもあるし、地域特有の課題は区長会や町内会長、公民館長、主事といった経験者の方々が色々な形で把握していると思う。そういうところと福祉関係含めて横断的なつながりをどう作りながら計画策定につなげていくか、あるいはこれまでの取組をいかに活かしていくか、そういう視点でぜひ良いものを作っていったら良いのではないかと思う。

(委員長)

5年前に第1次計画を策定した時よりも国の施策も含め、分野横断で現場は1つということで、重なり合っているところは整理したりとか、一緒に取り組んだりスリム化したり優先順位を付けたりという方向性は定まっているとは思いますが、手順として実際現場で誰がどうやって整理するのかというのが課題なのかなという気もする。第2次計画に向けて他の計画や課題等との調整はどのように進められるのか。区長会なども当然連携しながら庁舎とかでも調整を進められるということによろしいか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員長)

頑張っている取組はもっと伸ばしたりとか、あるいはそのノウハウを活かして次の段階に進められるように進めてほしいという要望でもあると思う。

(N委員)

次の計画を立てる前に、昨年第2次総合計画ができたが、その中に地域振興という項目がある。鶴岡市の各地域について挙げられているので、そのあたりとの整合性についてはどう考えているのか。

(事務局)

地域振興についても各地域で地域振興懇談会という組織で検討いただき、地域振興計画を策定し、それに基づいた施策を総合計画やまちづくり未来事業にも反映している状況である。やはりそういったものとコミュニティは不可分な部分もあるので、今後地域単位での検討の方法として、懇談会等も視野に入れながら地域の担当と意見交換をしながら検討させていただきたい。

(委員長)

当然整合性を持たせたいという考えだと思う。先ほどから繰り返しにはなるが、どうやってそれを進めるかという調整の部分で、行政内部でも調整はあると思うが、地域レベルで何か進め方や整合性のとり方についてご提案、ご意見があればお願いしたい。

(N委員)

1つお願いしたいのは、各地域で分けられているが鶴岡地域は1つの括りになっている。鶴岡は市街地と郊外地はコミュニティのやり方など全然違うので、そのあたりを考慮してほしい。

(委員長)

仰るとおりだと思う。そのあたりはアンケートや懇談会等、評価・見直しの進め方の単位などで検討していければと思う。

(A委員)

推進計画では5年間でやるべき色んな課題が取り上げられているわけだが、実行計画というのは「1年目はこの課題についてやりましょう」、「2年目は…」、「3年目は…」と、

何をやるのかが具体的でないとい計画は進まないと思っている。推進計画の詳細計画を各地域で作るなりしないと進まない。それから目標値について、数値目標が1番良いのだが、例えば交流人口、あるいは1年間の事業で何人参加したかの人数がどんどん上がってくればコミュニティが良くなっているという感覚にもなるだろう。または施設であるコミセンの利用率、例えば3万から5万に上がれば交流している人口ということで、目で見えるような評価をするものさしを作ってもよいのかなと思う。以上2点、詳細計画と目標値をどうするのかということも参考に策定してはどうか。

(委員長)

以前から計画がこのままでは進まないのではないかというご意見をいただいていた。今回こそ詳細計画を進め、PDCAで回るようにというご提案だと思う。例えば活性化推進委員会の役割も年度ごとに計画の進捗をモニタリングしたり、ある程度方向性を決めていくことも必要であるし、話し合いの場をどう持たすかということも含めて詳細計画を作るという点と、計画が進んでいるのか、目標に近づいているのか、誰でも見てわかりやすいようなベンチマーク・指標をいくつか作ったらどうかという提案であった。合わせて提案だが、満足度調査について、必ずしも客観的なく数値ではなく主観でも良いと思う。例えばコミュニティの役員や事務局長など核となる方の主観でしかわからないような地域の変化、参加者が増えているように感じるとか、若い人が来るようになった、5年前より情報が伝わっているのかいないのかなど、主観の満足度調査的な指標があっても良いのかなと次は提案したい。そうすれば市民にもコミュニティ推進って何やっているのかというのが少し伝わるのかなと感じた。

(B委員)

これまで3回から4回ほど出席させていただいているが、様々な話を伺い、非常に積極的な取組をされているということをお場で初めて勉強したような感じである。日中は仕事をして家に帰るとい生活をしていると、今日聞いたような話を普段聞く場が少ない。鶴岡に来た最初の頃は来てすぐだったので知らないだけかなと思っていたが、5年経ってもあまり知る機会がない。よそから来た人や日中フルタイムで仕事をしている人が巻き込まれにくい感じになっているのかなという気がする。そういう方を各取組に巻き込まなければいけないわけではないが、それぞれ資源を持つ人もいるので、そういう方を巻き込めるような仕組みが何かあっても良いのかなと思う。

(I委員)

先ほどの加茂地区の話聞いて感動した。これが活性化推進委員会の目指すべきところを絵として表しているような感じであった。結局は人と人が触れ合い、「この人と一緒に時を過ごして嬉しい」と思うところがコミュニティではないか。そういう場所づくり

をしていくのがコミュニティ推進計画だと思う。この4年でコミセンが色んな事業を行い、試行錯誤してきた結果、地域ごとの課題は事務局長が見えていると思うのでそれを知りたい。それで現場がやりやすいようにすべての組織でサポートしていく。コミセン活動が市の中心事業のコア部分であると捉えていくべきではないか。将来的には加茂地区が160人になってもびくともしない計画になると思う。

(委員長)

今仰っていただいたように「一緒に時を過ごせて嬉しい」ということも満足度調査の大事な指標になると思う。そこに住んでいる方がどう感じるのかという点も大事であるし、先ほどご意見があったようによその方にもそれが伝わるという点も大事である。

(F委員)

資料にまちづくり活動促進事業の一覧があるが、こういう事業があることをわからない場合があるので、助成をしているのであれば内輪で終わらないように委員にでも情報をフォローしてもらえると活動が広がっていくのではないか。

(委員長)

本日の1番大きな課題は情報共有ではないか。市も5年間で見直しも含め様々な事業をしているが、本当に必要なところに情報が届いているかというのは引き続き課題かと思う。

(I委員)

コミセン同士がダイレクトに情報共有ができるように鶴岡市全体のネットワークを作ってほしい。

(委員長)

例えば1箇所のコミセンから発信したら他のコミセンすべてにつながるものというとか。

(I委員)

そのとおりである。今はイベントが多いので案内もできればと思う。

(委員長)

もしかしたら行政の仕事の省力化にもつながるかもしれない。直接やり取りができる媒体・通信網という提案であった。

(委員長)

来年度は第 2 次の計画策定に向けて委員会の回数も多くなる。出席が叶わない時はぜひ事務局にご意見を寄せていただいたりしながら皆でより良くなるように協力したいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

7 その他

特になし

8 閉 会 (事務局)